

ピアス希望者に対する 耳垂厚の測定

Key words: ピアス, ピアッシング, 耳垂厚,
Ear piercing



高橋知之

MEASUREMENT OF EARLOBE THICKNESS FOR EAR PIERCING

TOMOYUKI TAKAHASHI, MD

Takahashi Clinic

12-7 Udagawa-cho, Shibuya-ku, Tokyo 150

- 1) I devised a method of measuring earlobe thickness using square pieces of paper with a different sized defect on one side.
- 2) Thickness of the earlobe was measured before ear piercing in 2,749 cases.
- 3) The earlobe was thicker than 6 mm in 76.9%. The standard 6 mm length post stud earring should be contra-indicated in these cases.
- 4) It is important to select the optimum length of the earring-post to eliminate complications after ear piercing.

はじめに

ピアス式イヤリング (以下、ピアス) の耳垂を貫く部分の長さを有効軸長という。ピアスの穴あけ (以下、ピアッシング) に用いる医療用ファーストピアスには有効軸長が6 mmのスタンダードタイプのものとは8 mmのロングタイプ (Fig. 1) のものがある。

耳垂厚よりも有効軸長が短いと圧迫によっていわゆるピアス皮膚炎を引き起こすため、製造物責任法が施行された平成7年7月以降からスタンダードタイプのファーストピアスについては6 mm以上の耳垂に使用しないようにと複数の販社が使用説明書に明記するようになっている。

当院を訪れたピアス希望者の耳垂厚を測定してみたところ興味ある結果が得られたので報告

する。

方 法

隙間を4 mmから10 mmまで1 mm間隔に裁断した厚さ0.7 mmの凹状の紙片 (以下、耳厚測定カード) を作成した (Fig. 2)。例えばまず被験者の耳垂に10 mmの耳厚測定カードを差し込んで落下するかを調べる。落下した場合は再度9 mmの耳厚測定カードで調べる。9 mmが落下した場合には8 mmで調べる。耳厚測定カードをだんだん狭くして6 mmで初めて落下せずに耳垂に留まった場合 (Fig. 3)、その部の厚さは6 mm台 (6 mm以上7 mm未満) とした。

対 象

1995年10月20日から12月10日までの52

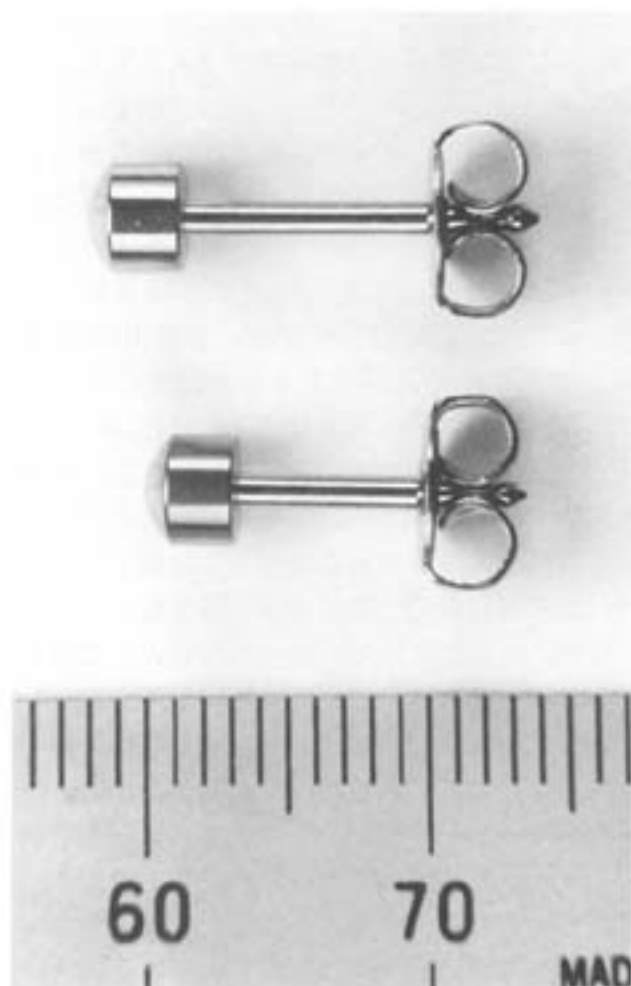


Fig. 1 Ear piercing studs

The upper one : long post type
(8 mm)

The lower one : standard post
type (6 mm)

日間に当院を受診したピアス希望者を対象とした。

測定はピアッシング前の左耳垂で行った。右耳垂のみのピアッシングでは該部位で測定した。耳垂以外の部位へのピアス希望者は除外した。

結 果

1) 症例数：男性 160 例，女性 2,589 例の合計 2,749 例であった。

2) 年齢分布：男性は 13 歳から 40 歳まで。女性は 12 歳から 67 歳までで，男女とも年齢の平均値は 22 歳で最頻値は 19 歳であった。

3) 耳垂厚：男女間に有意差は認めず，平均



Fig. 2 Measurement devices : The square paper pieces with different sized defects on one side to measure the thickness of earlobes (4 mm to 10 mm)

値は 6 mm 台で最頻値は 7 mm 台であった。6 mm 以上の耳垂厚を示す症例は 2,114 例 (76.9%) であった (Table 1)。

考 察

ピアッシング直後にピアスを抜去すれば穴は閉塞し 1 次的に治癒する。ピアスをそのまま留置しておくとも 1 次的治癒は妨げられ，耳垂の前後からピアスの軸に沿って延びてきた上皮が数週間後には癒合して穴が完成する。すなわち留置したピアスに沿ってトンネル状に 2 次的治癒が完了するわけである。

医療機関で一般的に行われているピアッシングの方法には，注射針などを用いてあけた穴に装飾用の 18 金製ピアスやプラチナ製ピアスを装着する方法と，滅菌された医療用ファーストピアスをピアスガンまたはピアッサーで打ち込む方法がある。前者は煩雑かつ非衛生的で合併症が多いことから次第に後者が主流となってい

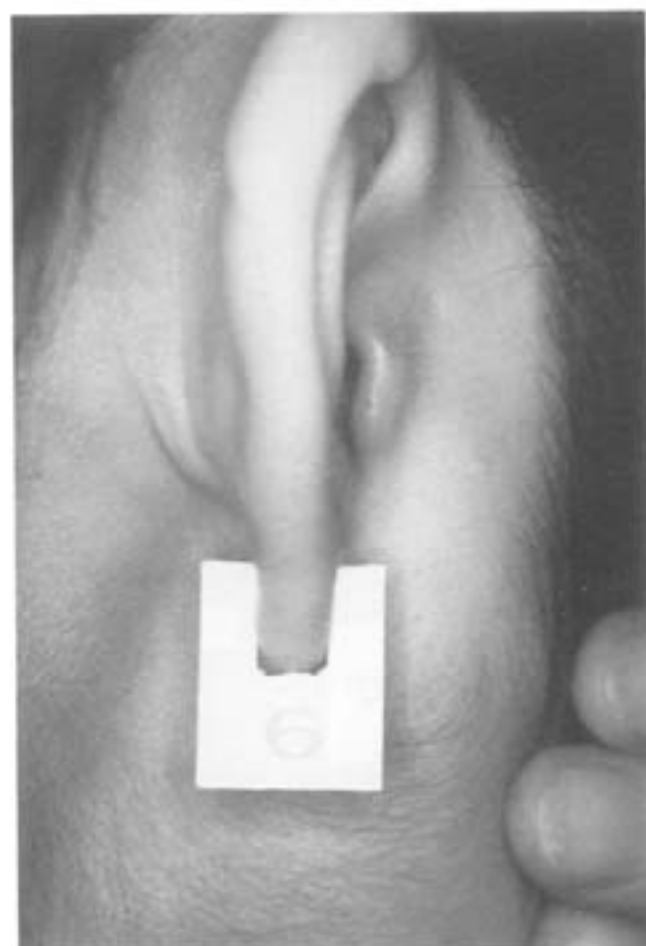


Fig. 3 Method of measuring earlobe thickness: This earlobe is thicker than 6 mm because the "6 mm piece" remains on the ear.

る。

ピアッシング直後は無菌状態であっても、耳垂はガーゼなどで被覆されず開放されているので不潔になりがちであり、創傷管理の面からみると「ピアスは半閉鎖された汚染創に留置したドレーンである」と言うこともできよう。ドレーンと考えれば軸が太いもののほうがドレナージ効果は高いはずである。装飾用の18金製ピアスの軸の直径は0.6 mm程度のもものが多く、医療用ファーストピアスの場合は軸の直径が1.2 mmのもものが主流であり、これは理に適っていると言える。しかし軸は太くてもピアス頭部や留金が耳垂に接触した状態ではドレナージ効果は期待できず炎症を引き起こしやすくなる。このような理由から販社によっては有効軸長6 mmのスタンダードタイプのファーストピアスを厚さが6 mm以上の耳垂に使用することを禁じているわけであるが、創傷治療過程の早期に起きる腫脹を考慮すれば安全な適用は5 mm程度までの耳垂と著者は考える。軸長の選択を誤ればピアス皮膚炎を起こすのみならずピアスの埋没や耳垂裂ひいては金属アレルギーなど種々の合併症の原因にもなる³⁾。

今回の測定で耳垂厚が6 mm未満であった例は23.1%と少なく、5 mm未満であった例は僅かに2.6%に過ぎないことが判った。スタンダードタイプのファーストピアスを選択する際には耳垂の厚さを正確に測定して慎重でなければならないと考える。また耳垂厚が8 mm

Table 1 Thickness of earlobe in 2,749 cases

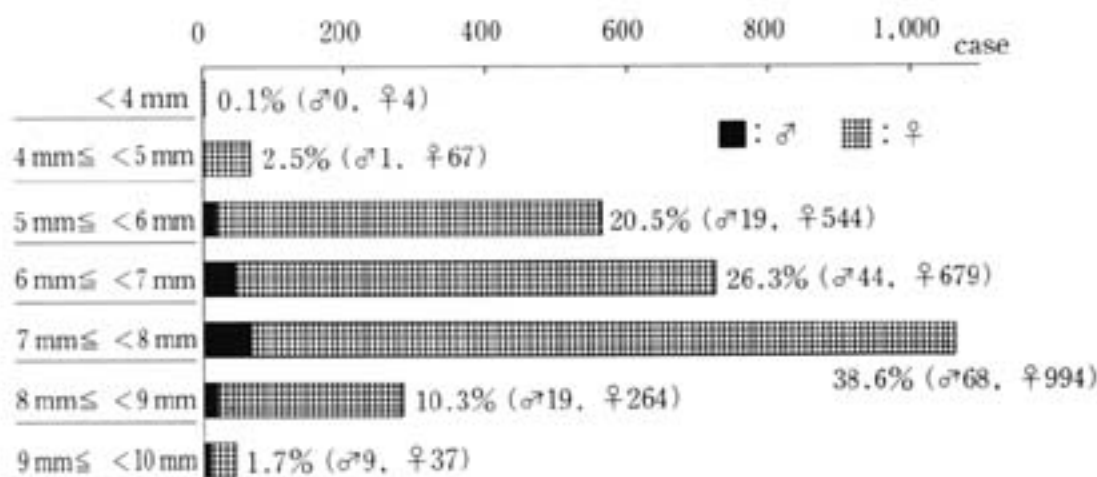




Fig. 4 Many magazines or newspapers report complications after ear piercing.

以上と極端に厚い例も12%程度存在することも判った。これはロングタイプといえども万能ではないことを示しているが、著者はこのような症例に対してはシリコンリング²⁾やいわゆるボディピアスで対応している。今回の測定方法

では耳垂線の厚さを測定しているので耳垂の中央部が陥凹している症例には意味がないとの考えもあろう。しかし、そのような例はもともと耳垂が非常に厚いことが多いし、また最近では中央部よりも辺縁部へのピアッシングを希望する

人が増えており今回の2,749例でも80%以上が耳垂縁へのピアッシングであった。

日本国内で使用されている医療用ファーストピアスは全て欧米からの輸入品であり現時点では国産品は存在しない。有効軸長6mmのファーストピアスをスタンダードタイプと呼ぶのは、あくまでも欧米の基準に照らしてであり、欧米では小学校に上がる頃にはピアッシングが終了していることが多い。すなわちスタンダードタイプというのは耳垂の薄い子供に対して標準サイズということなのであって、日本の成人にはほとんどの例で短かすぎるのは当然ともいえる。

最近マスコミなどでピアスによるトラブルが取り上げられることが多い (Fig. 4) が、医療者側はそれほど深刻に受けとめていないようにも見受けられる。その理由を著者は次のように考える。すなわちトラブルを起こした患者は医師の治療を受けても「どうせ穴をつぶさなくてはならない」と考えてピアスを自己抜去してしまつて医師を受診しないか、受診してもピアッシングした医師ではなく他の医師を受診する傾向が強くて施行した医師へのフィードバックが欠如するためにトラブルの発生頻度が把握できないことにある。

著者はシリコンリングによる治療によって穴をつぶさずにピアス皮膚炎を治療する方法を考案²⁾し、1989年からのピアッシングに際しては「穴をつぶさずにピアスができる状態に治療するので少しでも異常があれば早急に受診するように」と口頭かつ文書で強く指導してきた。その結果多数のピアス皮膚炎患者が来院するようになりファーストピアスの形状によってピアス皮膚炎の発生頻度が大きく変化することが判明した。すなわち装飾用の軸径0.6mmで有効軸長6mmの18金製ピアスをファーストピアスとして用いた場合のピアス皮膚炎の発生率は31.5%であったのに対して軸径1.2mmで有

効軸長6mmのスタンダードタイプのファーストピアスでは7.3%、軸径1.2mmで有効軸長8mmのロングタイプでは2.9%であった³⁾。

この調査の頃は耳垂厚を測定せずに、見た印象だけでファーストピアスを選択していたので6mm以上の耳垂にスタンダードタイプを使用した場合が相当数あったためにこのような結果になったと反省し、今後は耳垂厚を正確に測定してファーストピアスを正しく使い分けていきたいと考えている。

ま と め

1) 隙間を4mmから10mmまで1mm間隔に裁断した凹状の耳垂測定カードを被験者の耳垂に差し込んで落下するか否かで2,749例のピアス希望者の耳垂厚を調査した。

2) 有効軸長6mmのスタンダードタイプの医療用ファーストピアスが適用となる耳垂厚が6mm未満の症例は23.1%と少ないことが判明した。

3) ピアッシング施行前に耳垂厚を正確に測定することによってスタンダードタイプの医療用ファーストピアスとロングタイプの医療用ファーストピアスを使い分けることが合併症を防ぐうえで重要である。

文 献

- 1) 高橋知之, 高橋眞理子: ピアッシングによる合併症と対策. *Skin Surgery*, 1(1): 65-73, 1992.
- 2) 高橋知之, 高橋眞理子: シリコンリングを用いたピアスによる炎症性合併症の治療. *臨床皮膚科*, 45(12): 1009-1012, 1991.
- 3) 高橋知之, 高橋眞理子, 林 健: ピアッサー(使い捨てピアス穴あけ器)の使用経験. *臨床皮膚科*, 46(8): 679-682, 1992.